

未来に生きて働く探究力と省察性の育成

国語科の本質

国語科は、言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で正確に理解し適切に表現する資質・能力を育成する教科である。国語科は、様々な事象や対象の内容を自然科学や社会科学等の視点から理解することを直接の学習目的とするのではなく、様々な事象をどのように言葉で捉えて理解し、どのように言葉で表現するか、という言葉を通じた理解や表現及びそこで用いられる言葉そのものを学習対象とするという特質を有している。したがって、言葉に着目して言葉の働きを捉えるという国語科固有の視点を踏まえ、理解したり表現したりしながら自分の思いや考えを深めることが、国語科で育成したい力である。

国語科の目標及び育みたい探究力と省察性

国語科の目標	国語で理解し表現することを通して、①創造的・論理的思考の側面、②感性・情緒の側面、③日常生活における人との関わりの側面から言葉に対する見方・考え方を働かせ、言語感覚を養い、自分の思いや考えを形成し深める資質・能力を育成する。
育みたい探究力	創造的・論理的思考や感性・情緒を働かせて思考力や想像力を養い、日常生活における人との関わりの中で、国語を正確に理解したり適切に表現したりするとともに、新たな考えを創造する力を高めるようにする。
育みたい省察性	テキストに書かれている言葉や自他の発言、または問題解決の過程や結果を振り返りながら、学級や個人の問題解決について調整したり、改善したりしながら問題解決の質を高める資質・能力

国語科・領域における探究的な学びのイメージ

読む・課題を決める

- 読む
- 自分の課題をもつ

調べる・まとめる

- 調べたことをメモする
- 自己の考えをまとめる

表現する・交流する

- 書く、作る
- 対話で自己の考えを変容させる

振り返る

- 感想や意見を述べ合う
- 振り返る

探究力と省察性を育む指導

様々な事象をどのように言葉で捉えて理解し、どのように言葉で表現するかを育むためには、実生活の場における問題を解決すべく探究する「探究力」と自らの探究を調整・改善しながら進めるための「省察性」を育む必要がある。

学習者一人一人が、その単元の学習を通して探究力を育むには、学習者の興味・関心や問題意識をふまえた学習課題を設定し、その学習課題の解決を目指して学習活動を展開することができるように単元を構想する必要がある。学習課題は、①学習者の学校生活や学習生活の場において、学習課題となりうるもの②社会の求めるものや国語科の教科目標などに照らして、子どもに興味・関心をもってほしいと思うことから設定することができる。そこで、子どもが興味・関心を持つ学習材として、『ほんまもん（本物）』を積極的に活用したい。『ほんまもん』を活用することで、子どもにとっては「知りたい」「伝えたい」と言った意欲が高まり、学ぶ必然性のある学習となる。自分が選んだこと（本など）や地域教材など身近なものを教材化することで、子どもと学習材との距離が縮まり、子どもたちがより探究的に学びたい『ほんまもんの課題』となり、探究的に学ぼうとする姿が見られると考える。

研究の評価

研究内容で取り組んだ授業実践の中での子どもの言葉をもとに、研究の成果と課題を明らかにしていく。その際に授業での子どもの言葉やノートの記述などの子どもの表現物を用いて研究の質的評価を行う。また、年度初めと年度末にアンケート調査を行い、アンケート結果による量的評価も行う。